

大麻が含む夢の成分「CBD」の効果とは？気になる法制度も解説

ダイヤモンド編集部 相馬留美：記者

特集 グリーンラッシュがやってくる

2019.11.12 5:45 有料会員限定

いいね!

シェア

Tweet

B!

🔗

🖨️

A

A



写真:アフロ

世界を席卷する「グリーンラッシュ」。大麻に含まれるCBDは、なぜそこまで人々を魅了しているのだろうか。特集「グリーンラッシュがやってくる」（全5回）の#2は、大麻の基礎知識から、CBDの効果・効能、大麻を巡る法制度まで、CBDが注目を集めるポイントを徹底解説する。（ダイヤモンド編集部 相馬留美）

大麻由来成分ならハイになる？ 熱狂を生むCBDの「三つの誤解」

食品や飲料大手、たばこ産業の名だたるグローバル企業が、こぞって参入している大麻由来成分「CBD（カンナビジオール）」市場。とはいえ、日本人にとって大麻は「違法薬物」のイメージが強い。そのためCBDに対しても誤解しがちだ。

例えば、CBDオイルが大麻由来であることを伝えと、多くの人はこう反応する。

「それは、使うとハイになるの？」

答えはノーである。CBDを体内に入れることで起きる作用は、「ハイになる」という大麻の一般的なイメージとは大きく異なるからだ。

また、日本で「CBD」という言葉でウェブ検索すると、誤った情報が散見されるという現実がある。海外で「グリーンラッシュ」と呼ばれるまでの熱狂を生み出したCBDが人体に与える影響や、誤解されがちなことについて最新の研究内容から解説しよう。

アクセスランキング

1時間

昨日

1週間

会員

- 1 韓国GSOMIA破棄へ、文政権の暴走で日米が被る損害を元駐韓大使が警告
 - 2 全国銀行員の平均年収ランキング2019、全国87行を一挙公開！
 - 3 センスの悪い人が選ぶ「ダウン」はこれ！
 - 4 50代で大金を一度に投資する「運用病」が増加している理由
 - 5 「人手不足でも名目賃金下落」の異常事態が起きたメカニズム
- AD ワインの収穫にも作業支援ロボットで「スマート農業」を推進
- AD 海外子会社の小さな不正も見逃さない！A | 監査のインパクトとは

ランキング一覧

特集

有料会員限定

5G大戦

グリーンラッシュがやってくる

トヨタ、ホンダ、日産 自動車の最終決断

ウェブサイト価値ランキング2019

中国で5Gの未来を見てきた。ジャーナリスト高口康太リポート

社員が業務時間中にパソコンで何をしているか把握してますか？[AD]

大麻が含む夢の成分「CBD」の効果とは？気になる法律制度も解説

ダイヤモンド編集部 相馬留美：記者

特集 グリーンラッシュがやってくる
2019.11.12 5:45 有料会員限定



知っておきたい大麻の基本

CBDとTHCはどう違う？

CBD カンナビジオール	THC テトラヒドロ カンナビノール
アサに含まれる物質「カンナビノイド」の一つ。さまざまな細胞機能のバランス調節に寄与。精神活性作用はもちろん、習慣性や依存性もない。	アサに含まれる物質「カンナビノイド」の一つ。マリファナの主原料になる。精神活性作用があり、いわゆる「ハイになる」状態を生じさせる。

日本でNGの部位ってどこ？



*×は日本の大麻取締法に違反しているもの

DIAMOND

拡大画像表示

CBDの誤解（1） 使うと「ハイ」になる

薬用生物「アサ」（大麻草）に含まれる生体活性物質を「カンナビノイド」という。アサには100種類以上のカンナビノイドが含まれているが、その一つでマリファナの主原料になるのがTHC（テトラヒドロカンナビノール）だ。THCには精神活性作用があり、いわゆる「ハイになる」状態を生じさせる。

その仕組みは、ケシと似ている。ケシから取れるアヘン（主成分はモルヒネ）を体内に取り入れると、体内にある脳内麻薬（エンドルフィン）に反応する受容体に作用する。

大麻も同様に、大麻から取れるTHCを体内に取り入れると、脳内マリファナ（内因性カンナビノイド）に対する受容体に作用すると考えられているのだ。

しかし、カンナビノイドの一つであるCBDの方には、THCのような精神活性作用はないことが分かってきた。

THCとCBDの両成分が発見されたのは1960年代。ただ当時は、具体的にどんな仕組みで作用するのかが解明されていなかった。その後研究が進み、90年代に内因性カンナビノイドが発見され、体内でのカンナビノイドの働きが少しずつ明らかになってきた。

そのため、大麻に関する研究は、比較的新しい分野だ。今も続々と新しい発見が報告されているというわけである。最近では、動物や人の臨床試験実施後に学術論文になったものは100疾患に及んでいる。

加えて、大麻からTHC、CBDを分離して抽出することができるようになった。その結果、さまざまな製品への加工が可能になったことも、グリーンラッシュを後押しする要因となっている。

CBDの誤解（2） いわゆる「医療用大麻」のこと？

大麻由来といえど、CBDと医療用大麻は全く別物である。

医療用大麻は、「医療用」と冠しているが、THCを多く含んでいる。つまり、用途が違うだけで、嗜好用大麻（マリファナなど）と中身は同じなのだ。

一方、CBDは産業用大麻から作られる。産業用大麻とは、種子や繊維を取る目的で栽培される大麻を指す。「ヘンプ」とも呼ばれており、日本で「麻」といえば、ほぼ産業用大麻のことだ。

産業用大麻は、THC濃度に規定がある。例えば米国では、産業用大麻のTHC濃度は0.3%未満と規定されている。

大麻の中でも、THCが少なくなるように「品種改良」されたものだと考えればよいだろう。

CBDの誤解（3） 日本で売られているCBD製品は密輸!?

「日本では大麻の所持や使用は絶対にできない」と考えている読者が大半ではなからうか。

もちろん、マリファナなどの麻薬の所持や売買は当然違法である。

CBD製品も大麻を使ったものであることは間違いない。商売とはいえ、さすがにEC（電子商取引）サイトも違法薬物を大げらに商品として並べるわけにはいかない。

ではなぜ、大麻を利用した製品を販売することができるのか。実は、大麻取締法では、規制対象になっていない大麻の部位がある。つまり、その部分から取れた製品は販売できるのだ。

具体的には、「大麻草の成熟した茎及びその製品（樹脂を除く。）並びに、大麻草の種子及びその製品」は、大麻取締法の適用外であると同法に明記されている。従って大麻の成熟した茎と種は法の適用外で、規制の対象になっていないのである。

どうしてこんな文言になっているかというと、それは大麻取締法の成立時期に関係している。

大麻取締法が成立したのは戦後すぐの48年。そして日本では昔から麻織物や麻縄に大麻草の茎の部分を使用されていた。また種子は、七味唐辛子などに使われていた。そのため、有害性がほとんどないということなどから、規制対象から外された。当時の文言が今もそのままになっているというわけだ。

一方、THCは「麻薬及び向精神薬取締法」で規制されている。CBD製品の輸入時には、THCやCBDの濃度などが書かれた成分表を厚生労働省の麻薬対策課に提出することが必須である。そのため、THCが含まれているものは輸入できない。

加えて、大麻草の茎と種子だけを栽培することは不可能なので、当然ながら原料が日本産のCBDは存在しない。



CBDの「アイソレート」 Photo by Rumi Souma

海外では基本的に、THC濃度の低い産業用大麻の全ての部分を使い、CBDを含むほぼ全成分を抽出する「フルスペクトラム」という製法を使っている。このため、抽出物にはTHCをはじめとするCBD以外の成分も含まれる。

しかし、日本には二つの大きなローカルルールがある。使えるのは「茎と種限定」ということ、そしてTHCが入っていないことだ。

そのため、海外の大麻製造会社は日本に輸出する場合、工場に茎と種のみを原料とするラインをわざわざつくる必要がある。

その上で、さらに製法も日本仕様にする。

フルスペクトラム製法の抽出物からさらにTHCを分離する「ブロードスペクトラム」にしたり、THCが出ない品種の大麻から抽出したりするのである。（ただ、後者に関しては、THC混入のリスクが残る）。

また、初めから「アイソレート」（CBDだけを分離、精製し、結晶化する）という製法で作られたものを輸入し、日本国内で製品として加工するケースも多い。

以上の三つが、CBDにまつわるよくある誤解だ。しかし、CBDの作用が複雑であるのも、誤解を招きやすい要因なのかもしれない。

「依存性や副作用がない」が期待される最大の長所

それでは肝心のCBDの効果効能はどのようなものが期待されているのだろうか。

「CBDは習慣性や依存性がなく、通常の使用なら副作用もなく、ましてや中毒にならない。効果と副作用が常に共存する医療用医薬品とは異なります」と語るのは、日本化粧品協会顧問で昭和大学薬学部教授の佐藤均氏だ。

近年の研究によれば、CBDはさまざまな細胞機能のバランス調節に寄与すると考えられている。こうした性質から、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病等）などの自己免疫疾患やアレルギー性疾患など免疫の過剰反応、またはがんや感染症などの原因となる免疫低下といったバランスが不安定になった症状に作用することが期待されているという。また、自律神経の調整にも役立つそうだ。

ある販売業者はCBDについて、「何らかの症状に効く『薬』のようなものではないんです。どちらかというところ、ビタミンやホルモンに近い」と説明する。

医療用大麻にはTHCが含まれる。それに対して、THCを含まないCBD製品は、サプリメントのようなものだと考えるとよいだろう。

ただ、健康体だとその効果は「健康維持」になるため、使用者には分かりづらい。それを逆手に取って悪用するケースもある。

日本でも合法的に輸入されたCBDをビジネスに生かそうとしている企業が出始めた。第3回では、日本のグリーンラッシュの現状をレポートする。

アクセスランキング

1時間	昨日	1週間	会員
1	韓国GSOMIA破棄へ、文政権の暴走で日米が被る損害を元駐韓大使が警告		
2	全国銀行員の平均年収ランキング2019、全国87行を一挙公開！		
3	センスの悪い人が選ぶ「ダウン」はこれ！		
4	50代で大金を一度に投資する「運用病」が増加している理由		
5	「人手不足でも名目賃金下落」の異常事態が起きたメカニズム		
AD	企業の大小に関わらずセキュリティ対策は統一すべき、は大誤解		
AD	事例に学べ！HP、ニュージーランド農協の「デジタル化」とは？		

ランキング一覧

特集

有料会員限定

5G大戦

グリーンラッシュがやってくる

トヨタ、ホンダ、日産 自動車の最終決断

ウェブサイト価値ランキング2019

中国で5Gの未来を見てきた。ジャーナリスト高口康太リポート

GEのDNAを受け継ぐ「3層に分けるDX」という新発想[AD]

特集一覧

最新記事

アップルウォッチ、心臓疾患探るのに有効=米研究グループ

GDP7-9月期年率+0.2%、4期連続プラス成長 内需けん引の構図続く

5G時代の商機はどこに？サブスク、遠隔操作、音の可視化、VR…

働く女性に「メガネ禁止」の謎、ルーツは「社内結婚」促進のためか

最新記事一覧